

ジャズ・ギター 特集  
**美の方程式**

# Gibson ES-335 IMPRESSION

ギブソンES-335現行モデル試奏

G'CLUB TOKYO X ジャズライブ  
 合同企画

“Mr.335”の愛称で知られるラリー・カールトンをはじめ、数多くのジャズ&フュージョン・ギタリストに愛されているギブソンES-335。今回、セミアコの王道と呼ぶにふさわしいこのES-335の現行モデルの中から、ギブソン専門ショップ「G'CLUB TOKYO」お薦めの7本を選び、サウンド・チェックを行なった。実際に試奏してみると、想像以上にサウンドの違いが表われ、各モデルの特徴をとらえることができた。自身も1964年製ES-335を愛用している天野清継がサウンド・チェックを行なった。

取材：山中弘行 撮影：松川泰治  
 取材協力：黒澤楽器店 G'CLUB TOKYO

Checker

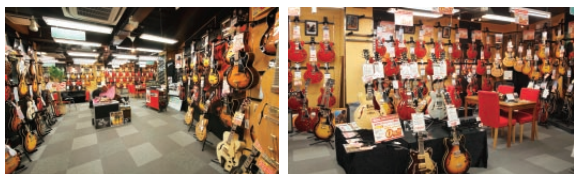


## 天野清継

プロフィール=東京都出身。アメリカ・カリフォルニア州グループ・スクール・オブ・ミュージック作曲科卒。『アズール』『サイレントジャズトリオ』『フォー・コーナース』『イン・ジ・エア』など合計10枚のリーダー・アルバムをリリース。また、テレビ、CF、番組やアーティストの音楽制作も手掛け、現在自己のグループEJQ(エレクトリック・ジャズ・カルテット)、渡辺香津美(g)とのジョイント・ライブなどで活動中。  
<http://members2.jcom.home.ne.jp/>

**G'CLUB** TOKYO  
 Fine Electric Guitar Shop

住所：東京都千代田区神田小川町3-8  
 (駿河台下交差点)  
 営業時間：11:00~20:00(年中無休)  
 電話：03(3295)2800  
 web：www.kurosawagakki.com/  
 mail：g-club@kurosawagakki.com



### ES-335が60本以上！世界最大級のギブソン専門店

今回、試奏を行なったG'CLUB TOKYOは、レスポールをはじめ、約800本以上のギブソン・ギターの在庫を誇る世界最大級のギブソン専門店だ。特に3Fは、ES-335が60本以上常にベスト・コンディションで並んでいるなど、ジャズ・ファンにはうれしいフルアコ&セミアコの専門フロア。じっくりと試奏ができる広い店内も魅力。

太くて甘い音色が魅力。ジャズに向けたコストパフォーマンスに優れたモデル



## ES-335 Dot Plain Satin

S/N 11191708 レッド 定価：¥396,900(税込み)

セミアコの王道ES-335のコンセプトはそのままに、サテン・ラッカー・フィニッシュで仕上げたプレーン・トップを採用したコストパフォーマンスの高いモデル。グロス・フィニッシュとはまた違う鳴りも魅力。

天野：ラッカーのクリア塗装をかける前段階で艶消しのサテンに仕上げたモデルですね。ネックは現行モデルの基本シェイプとのことですが、薄目で少々幅があるように感じました。ネック・サイドのバインディングはありませんが、60年頃の古いES-335のタッチに似ていて手になじみます。ピックアップは他のほとんどのモデル同様57クラシックですが、塗装も影響しているのでしょうか、太くて甘い音色が良いですね。とてもジャズに向けたトーンだと言えます。まさに買ってすぐに使える音色。もちろんジャズだけでなく、さまざまなタイプの音楽にも対応できると思います。「これから335！」と想っている方にもお薦めのコストパフォーマンスに優れたモデルですね。



パンチがあって、音抜けが良く、  
楽器としてのバランスが素晴らしい



## ES-335 Dot Plain

S/N 10171711 ヴィンテージ・サンバースト 定価：¥486,045(税込み)

ES-335 現行モデルの中でも、スタンダード・モデルとして人気の1本。1960スリム・テーパー・ネックと'57クラシック・ハムバッキング・ピックアップを搭載。チューナーはグローバー・キドニーが採用されている。

天野：これはパンチがあって、音抜けも良いですね！ やはり塗装の違いなのかサテン・フィニッシュのモデルとは明らかに音色が違います。それともグローヴァー製のペグを搭載しているからなのかな？ こう言った部分も、コンデンサーや他のパーツ同様に音に大きく影響します。サンバーストでドットのポジション・マークというのは儀的には好みですね。音色はロックっぽくて、アルヴィン・リーみたいなサウンド(笑) 粘りながら抜ける感じですから、ブルースにも向いています。高音域の倍音もはっきりしていますから、バンドでも埋もれないでしょう。さらにラッカー塗装されたネックの感じがとても良い。楽器としてのバランスが素晴らしいモデルですね。



バーストバッカー・プロが搭載された  
ロック的なサウンドでパワーがある1本



## ES-335 Block Inlay

S/N 13191703 アンティーク・レッド 定価：¥616,350(税込み)

ESシリーズ唯一、ハウリングにより強いバーストバッカー・プロ・ピックアップを採用した、ブロック・インレイも目を惹く定番モデル。レンジが広く、ジャズからロックまで、さまざまな音楽にフィットする。

天野：335は基本的にメイプル/ポプラ/メイプルという組み合わせの合板でボディが作られているのが特徴です。ただ、センター・ブロックにはメイプルが使われますが、その形状は時代と共に変化します。このモデルでは他の現行モデルと同じ形状でありながらライト・ウエイト・メイプルがブロックに使用されていて、生でもよく鳴りますね。新品でこの鳴りですから成長が楽しみです。もうひとつ他のモデルと違う点は、バーストバッカー・プロというピックアップが搭載されていること。'57クラシックはP.A.F.が経年変化した音を再現したものですが、これは力のあるハイ・ゲインなピックアップなので、ロック的なサウンドでパワーが活きてきますね。



甘いサウンドを持ちながら、  
ゴリツと太い音が印象的なお薦めのギター



精度も音色もすばらしい。トーンを絞った  
渋くて枯れた音がジャズにぴったり



## Limited Run 50th Anniversary 1960 ES-335 TD V.O.S.

S/N A00612 アンティーク・フェイデッド・チェリー 定価：¥517,650(税込み)

1960年のスリム・ネックを忠実に再現したモデル。センター・ブロックがボディ全体を通っているため、引き締まったコシのあるトーンが特徴。上位機種ヒストリック・コレクションに迫る完成度の高い限定モデルだ。

天野：“Vintage Original Spec.”の略が“V.O.S.”。なるほど、エイジング加工が施されていて、持った感じがすでにオールドでびっくりです。リー・リトナーの335も、リッチー・ブラックモアがディープ・パープル時代に弾いていたピグスピーのトレモロ付き335も60年製。特に60年の後半に変更された細めのネック形状が良い感じです。バイディングが薄いところまで再現されています。このモデルから現行の上位機種には パンブルビーの通称でおなじみのオイル・コンデンサー(その他はセラミック・コンデンサー)が使われていて、その違いが音に出ています。甘いサウンドを持ちながら、ゴリツと太い音が印象的。お薦めです。



## Limited Run 1960's ES-335 Block Inlay V.O.S.

S/N CS153352 アンティーク・フェイデッド・チェリー 定価：¥517,650(税込み)

鳴り、スペック共に高いポテンシャルを秘めたメンフィスESシリーズ。ライト・ウェイト・メイプル・センター・ブロック、ロング・ネック・テノン、パンブルビー・オイル・コンデンサーの採用など、こだわりの1本。

天野：60年代半ば前後の335をギブソン自慢のスキャンニング・システムを使って再現したモデル。近年のギブソンは最新技術の導入と製品管理が徹底されて、ギターの精度も音色もすばらしいですね。このモデルはラッカー塗装を薄めに施しているとのことですが、その影響もあってカッティングしたときの感じが良く、歪ませたときの音も好印象。ドンシャリ系のサウンドで、335特有のサスティンも相まって気持ち良い！すべてのモデルに言えることですが、特にこのクラスのモデルではトーンを絞ったときの、渋くて枯れた音がすばらしいです。籠ってモコモコにならず、何を弾いてもジャズになっちゃう。こういうところはやはり試奏しないとわからないところです。



倍音の出方まで1963年モデルを  
忠実に再現。箱っぽい音が実に気持ち良い



ミッド・レンジが効いてボトムもある。  
粒立ちの良い落ち着いたウォームな音色



## Historic Collection 1963 ES-335 Block Reissue

S/N A31182 アンティーク・フェイデッド・チェリー 定価：¥848,400(税込み)

ナッシュヴィルのカスタムショップ工場で製作された希少モデル。弾きやすい薄めのネックにショート・ガード、ブロック・インレイなど、1963年の仕様を忠実に再現した究極の335として絶大な人気を誇る。

天野：僕が使っているES-335は1964年製なので、この1963年モデルを再現したものと、とてもよく似ています。フレットが平らな感じといい、ネックの形状といったらまったく違和感がありません。カッティングしたときの5弦と6弦がタイトで、倍音の出方まで忠実に再現されている印象を受けました。“パキーン”と前に出る箱っぽい音が実に気持ち良いですよ。このモデルと1959年モデルがヒストリック・コレクション・シリーズで、ネック材などもより上質の材を使ってアメリカ・ナッシュヴィルの工場で作られているんですね。V.O.S.シリーズとヒスコレ・シリーズのテイルピースはアルミ製の物が使われていますが、これも音色の決め手のひとつですね。



## Historic Collection 1959 ES-335 DOT Reissue

S/N A91024 ヴィンテージ・サンバースト 定価：¥848,400(税込み)

最新の技術の投入とともに、最高の技術を持った専属の職人の手によって製作される“ヒストリック・コレクション”を代表するモデル。59年のためのネックとロング・テノン・セット・ネックの組み合わせにより豊かなサスティンが魅力。

天野：最後の7本目ですね。同じES-335でここまで音の違いがあるのには驚きました。前半5モデルのセンター・ブロックにはふたつのピックアップの間に空洞部分がありましたが、1960年モデルとこの1959年のリイシューには、空洞部分がありません。その分ソリッドに近い音がします。このモデルは箱鳴りが少ない分ミッド・レンジが効いていてボトムもしっかり出ながらも、粒立ちの良い落ち着いたウォームな音色ですね。さらにロング・ピックガード仕様で、ネックも厚みのある太い感じだけど弾きやすい。最新のスキャン・システム(PLEKシステム)で完璧に再現されていますが、当時の335ってこんな音だったんですね。ほんとうにすばらしいです。



# ES-335 現行モデル比較表

資料作成協力：G'CLUB TOKYO

共通スペック = 指板：ローズウッド レンジ：24.75） フレット=22F ナット幅：111/16インチ（42.86mm） テールピース：ストップ・バー・テールピース ブリッジ=ABR-1 or Nashville ABR-1

現行機種は、今回紹介したモデルの他に「Larry Carlton ES-335」などがあります

Model	Type	Factory	Pickups	Electronics	Body	Neck	Neck Joint Neck type	Other	Finish
ES-335 Dot Plain Satin	Current	メンフィス	'57クラシック ハムバックキング	2Vol & 2Tone セラミック ・コンデンサー	ラミネート・メイプル サテン・フィニッシュ セミ・ソリッド ・センター・ブロック	1ピース・マホガニー ドット・インレイ バインディングなし ブラック・ボジション	60タイプ (スリム)	ヴィンテージ・ベグ ダイキャスト・テールピース ショート・ピックガード ブラック・ハット・ノブ ナッシュビル・T.O.M.	CH EB サテン つや消し
ES-335 Dot Plain	Current	メンフィス	'57クラシック ハムバックキング	2Vol & 2Tone セラミック ・コンデンサー	ラミネート・メイプル セミ・ソリッド ・センター・ブロック	1ピース・マホガニー ドット・インレイ バインディング ブラック・ボジション	60タイプ (スリム)	グローバー・キドニー ダイキャスト・テールピース ショート・ピックガード ブラック・ハット・ノブ ブリッジABR-1	CH VS AN TB グロス
ES-335 Block Inlay	Current	メンフィス	バーストバック プロ	2Vol & 2Tone セラミック ・コンデンサー	ラミネート・メイプル (メイプル/ポプラ/メイプル) セミ・ソリッド ・センター・ブロック (ライト・ウエイト・メイプル)	1ピース・マホガニー ブロック・インレイ バインディング ブラック・ボジション	60タイプ (スリム)	ヴィンテージ・タイプ・ベグ ダイキャスト・テールピース ショート・ピックガード メタル・トップ・ノブ ブリッジABR-1	ATB ARD グロス
Limited Run 50th Anniversary 1960 ES-335 TD V.O.S.	1960	メンフィス	'57クラシック ハムバックキング	CTS Vol & Tone Pot パンブルビー ・コンデンサー	ラミネート・メイプル ソリッド ・センター・ブロック ミッキーマウス ・イヤール・カットウエイ	1ピース・マホガニー ドット・インレイ スリム・バインディング ベッコ甲ボジション	60タイプ(スリム) ロングテノン (ディー・ジョイント)	ホーリーウッドヘッド・ベニア 軽量アルミ・テールピース 2コブ・クルーソン・ベグ ロング・ピックガード メタル・トップ・ノブ ブリッジABR-1	VS AN FC V.O.S.
Limited Run 1960's ES-335 Block Inlay V.O.S.	1960	メンフィス	'57クラシック ハムバックキング	CTS Vol & Tone Pot パンブルビー ・コンデンサー	ラミネート・メイプル ソリッド ・センター・ブロック (ライト・ウエイト・メイプル)	1ピース・マホガニー ブロック・インレイ バインディング ブラック・ボジション	60タイプ(スリム) ロングテノン (ディー・ジョイント)	ホーリーウッドヘッド・ベニア 軽量アルミ・テールピース 2コブ・クルーソン・ベグ ショート・ピックガード メタル・トップ・ノブ ブリッジABR-1	LCB FC V.O.S.
Historic Collection 1963 ES-335 Block Reissue	1963	ナッシュヴィル	'57クラシック ハムバックキング	CTS Vol & Tone Pot パンブルビー ・コンデンサー	ラミネート・メイプル セミ・ソリッド ・センター・ブロック	1ピース・マホガニー ブロック・インレイ スリム・バインディング ベッコ甲ボジション	60タイプ(スリム) ロングテノン (ディー・ジョイント)	ホーリーウッドヘッド・ベニア 軽量アルミ・テールピース クルーソン・ベグ ショート・ピックガード メタル・トップ・ノブ ブリッジABR-1	VS AN EB FC グロス
Historic Collection 1959 ES-335 DOT Reissue	1959	ナッシュヴィル	'57クラシック ハムバックキング	CTS Vol & Tone Pot パンブルビー ・コンデンサー	ラミネート・メイプル ソリッド ・センター・ブロック ミッキーマウス ・イヤール・カットウエイ	1ピース・マホガニー ドット・インレイ スリム・バインディング ベッコ甲ボジション	59タイプ(ファット) ロングテノン (ディー・ジョイント)	ホーリーウッドヘッド・ベニア 軽量アルミ・テールピース クルーソン・ベグ ロング・ピックガード トップ・ハット・ノブ ブリッジABR-1	VS AN グロス

カラー：VS=ヴィンテージ・サンバースト、CH=チェリー、EB=エボニー・ブラック、ARD=アンティーク・レッド、ATB=アンティーク・ティール・バースト、FC=フェイデッド・チェリー、AN=アンティーク・ナチュラル、RD=レッド、TBK=トランス・ブラック、TB=トライ・バースト、LCB=ライト・キャラメル・バースト V.O.S.=Vintage Original Spec

## ギブソンES-335 ヒストリー

文：粟澤博幸 撮影：小貝和夫

「セミアコ」の代名詞とも言えるギブソンの335シリーズは、1958年に発表されたES-335Tにその系譜の起源を持つ。それ以前にも「薄ボディ」のモデルというものは存在していたが、現在のセミ・アコースティック・ギターの様式となっている「センター・ブロックをもつセミ・ソリッド構造」「ストップ・テールピースの採用」「ボディに直接固定されるブリッジ」といった仕様をすべて備えたのは335になってからだ。中でも「センター・ブロックをもつセミ・ソリッド構造」の採用はギター史の上でも特筆すべき出来事だ。単に「アコースティックとソリッドの良いところ取り」のうまいだけではない、まったく新しいセミ・アコースティック・ギターというカテゴリーを確立することになった。

しかし、当初はギブソンもまだ明確なヴィジョンをこの335に持てなかったのが、初期には紆余曲折の仕様変更も行なわれていた。たとえば、先行したレスポールから移植されたストップ・テールピース仕様だが、一時期それを他のギブソンのフル・アコースティック・ギターと同様のブランコ・テールピースに戻してみたり、一番の特徴であるセンター・ブロックの容量を減らしてみたり、さらにセンター・ブロックをまったく取り去って、単に「薄ボディ」のギターにしたES-330を登場させてみたりと、「セミ・ソリッド構造」に対して「迷い」を持っていたかのようにも見える。だが、そうしたメーカーの思惑のぶれも、新しい「音」と「使い勝手」を常に求めるミュージシャンの支持が大きく広がることで次第に払拭されていくことになる。

ES-335でその外観を特徴づけているダブル・カッタウェイだが、ギブソンがそれを最初に採用したのは正にこの335シリーズだった。ダブル・カッタウェイとしたことで、かつてのノン・カッタウェイやシングル・カッタウェイの時代では考えられないハイ・ボジションでのスムーズな演奏が可能になっ

た。ソリッドのレスポールではなく、この335の方が先にダブル・カッタウェイを実現したというのも面白いが、その他にもピックアップ・セレクターやジャックの位置などでオーソドックスな従来のレイアウトに従ったレスポールに対して、335はボディ構造に合わせたより合理的な配置となっている。このギターの各所には、その登場した時の独創性や革新性を垣間見ることができる。

また、時を同じくして発表されたハムバックキング・ピックアップ搭載のP.A.F.モデルが搭載されて登場したことも、この335シリーズの評判を上げるうえで大きな力になった。従来のP90などのシングルコイル・タイプのピックアップに比べて、よりサスティンが効き、パワーもあるP.A.F.は335のボディの持つ特徴を最大限生かすベスト・パートナーだった(逆に、ES-330の場合はP90仕様のモデルに愛用者のほうが多いが、それぞれのボディ構造に合ったピックアップが支持されていることがわかる)

その昔、まだギターがアンプを通すようになったばかりの頃、多くのギター弾きはそのハウリングには大いに悩まされていた。また、巡業で各地を回るミュージシャンにとっては分厚くかさばるギターは厄介な荷物でもあった。こうした当時の事情を反映して「薄ボディ」モデルは生まれてきたのだが、それはやがてセミ・アコースティック・ギターへと独自に進化し、今やフル・アコースティック・ギターやソリッド・ボディのギターと並ぶ確固たる地位を築き上げている。

粟澤博幸(あわざわ・ひろゆき)

ライブを中心として演奏活動しているギタリスト。多くのベース、ピアノ・プレイヤーとデュオ、トリオで共演している。ジム・ホール(j)やジャズ・ギターに関する研究。さらにダキストをはじめとするアーチトップ・ギター解説の著作が多数あり、最近では若い世代に対して独自の方法论によるレッスンを展開している。

Gibson ES-335T (1958)



写真のES-335Tは、最初に発表された1958年製のバース・イヤール後期モデル。正面からみるとわかるが、指板全体がヘッド寄りにオフセットされ、ブリッジの位置が「ホール」の中心を結ぶ線から上方にずれている。ダブル・カッタウェイとともにハイ・ボジションでのプレイアビリティをさらに向上させるためだ。「セミアコ」といえば、まず、すぐに思いつくのがこのES-335、それほどセミ・アコースティック・ギターというジャンルを確立したこのギターの登場は衝撃的だったといえる。

Gibson ES-335